

「介護職のための公開講座 in 八戸大学」

開催意義とその効果

——八戸大学 特別研究費及び共同地域研究プロジェクトによる
実践及び研究報告——

篠 崎 良 勝・小 幡 佐 久 子

1 実行委員会立ち上げ目的

青森県内において福祉関係の職能団体が主催する介護職員向けの研修は、毎月開催されており、介護職員の知識・技術向上に大きな役割を果たしている。しかし、開催される会場は青森市内での開催に偏っている傾向があり、八戸市内の介護職員、特に非正規職員が研修に参加したいと思っても時間と費用がかかってしまい、研修参加を躊躇したり、諦めてしまうことが少なくない。

そこで、八戸市を中心とした地域（岩手県北も含む）の介護職員の知識・技術向上に貢献すること柱として、2009年3月に八戸市内の有志（施設介護職員4名、八戸大学教員2名、光星学院専攻科教員3名）で「介護従事者のための公開講座」実行委員会（以下、実行委員会とする）を立ち上げた。

実行委員会が目的としたのは、以下の5点である。

- 1) 八戸市を中心とした地域における介護職員向けの研修を行い、地域の介護力のボトムアップを図る。
- 2) 介護職員の介護力のボトムアップによって、地域社会で暮らす利用者の人生を豊かにする。
- 3) 研修に参加した介護職員にとって実効性・実用性の高い講座でありながら、手

ごろな参加費で受講できる研修会とする。

- 4) 福祉に関する様々な情報提供を高等教育機関である大学で行うことにより、参加者の学習意欲の向上を図るとともに八戸大学の認知度、地域貢献度を向上させる。
- 5) 青森県内だけではなく、岩手県北をはじめとした県外の介護従事者と県内の介護従事者の交流を深める。

2 実施内容と成果

(1) 参加費の検討

実行委員会が最初に検討したのは、「参加費」と「講座内容」であった。地域の介護職員へのヒヤリングを通して明らかになったのは、法人に所属している正規職員が職能団体主催の研修に参加費する場合、参加費は法人が外部研修費として全額ないしは一部補助をしているということであった。

しかし、今回企画している研修は職能団体主催ではなく、非常勤介護職員の参加も期待していること、さらには家族介護者の参加も呼びかけていく関係上、参加費は極力低く設定する必要があった。そこで、実行委員会では消費者が品物を購入する際の満足度となる指標である「お得感」、「お買い得感」という視点で参加費及び公開講座の検討に入った。そこで、目標と

して「参加費 2,000 円」という案で運営を可能にする方法の検討に入った。

(2) 研修内容の検討

大学という場所で開催するメリットを取り入れて、「一日限定、大学生気分」を満喫できるように時間割を作成して、堅苦しい研修というイメージの低下とリラックス感の向上に努めた(資料1)。

また、公開講座に関する内容の選定に関しては、八戸市内の介護職員へのヒヤリング調査をもとに検討した。特にニーズが高かったのが、

「認知症」、「コミュニケーション」という分野であった。

その結果、第1回、第3回の公開講座は8講座を準備し、参加者自らが受けたい講座に参加する形式とした(第2回は学園祭での開催ということもあり、2講座のみ)。

具体的な講座内容は資料2のとおりである。以上のような8講座を設定し、最大で4講座を受講できる環境とすることで、自ら受講する講座を選ぶ楽しさと、学ぶ意欲を高めることとした。

そこで、参加費に関しては、「1講座ずつの

今年も「かいごの学校」、始まるよお〜

第3回
介護従事者のための
公開講座
in 八戸大学

教室の座席は自由(早い者勝ち)です
日曜日なので、チャイムは鳴りません!

事前申し込み参加者が**400名**超となっており、**会場が変更されている講座があります**。ご注意ください! (詳細は下の表をご覧ください)

【今日の時間割表】 ご覧ください

研修時間	サービス提供責任者 & ケアマネ向け	一般介護職員向け	一般介護職員向け
10:30~ 12:00	第1研修 サービス提供責任者の役割と責務 (10:30~15:30) 320教室	第2研修 日本の介護現場で起きている介護事件の深層 (10:30~12:00) 520教室	第5研修 八戸せんい介護福祉専門学校養成講座 (10:30~12:00) 体育館
昼休み 12:00~12:40(40分間) お弁当は 11:30 から8号館1階(受付の場所と同じ)でお渡しします!!!!!! (参加証を必ず持参ください)			
12:40~ 14:10	第1研修のつづき (10:30~15:30) 320教室	第3研修 介護保険制度の未来は、どうなる!? (12:40~14:10) 520教室	第6研修 介護現場で使えて楽しい、実践マシク講座 (12:40~14:10) 330教室
14:20~ 15:50		第4研修 知らなきゃいけない!!介護保険制度の新たな課題 (14:20~15:50) 330教室	第7研修 実践的認知症ケアを考える (14:20~15:50) 520教室
16:00~ 17:30	第8研修 社会福祉法人の品格を問う! (16:00~17:30) 520教室		

資料1 時間割表 (第3回 介護従事者のための公開講座)

- 【第1回 介護従事者のための公開講座 in 八戸大学】2009年6月27日（土曜日）
- 第1研修：小規模多機能型居宅介護【ひつじ雲】—実践から見えてきたもの—（講師 柴田紀子）
 - 第2研修：認知症ケアで大切にしたい事を考える～利用者の心地よさを求めて、ヘルパーの実践から～（講師 菅野のぶ子）
 - 第3研修：利用者本位の訪問介護計画とアセスメント（講師 櫻井和代）
 - 第4研修：言葉で介護する“ことばかいご”～ケアプランに沿った目標達成のために～（講師 赤羽敏宏）
 - 第5研修：業務範囲から考える訪問介護員の本当の仕事～マニュアル化された介護の提供にならないために～（講師 山本満知子）
 - 第6研修：ヘルパーならではの視点と技術が身に付くゴミ袋での足浴～心地よさの体験～（講師 藤原るか）
 - 第7研修：ひやり・はっと、介護事故防止のためのファーストステップ～危険予知訓練～（講師 篠崎良勝）
 - 第8研修：これからの特別養護老人ホームの質の視点—世界に認められるケアを目指して—（講師 本間郁子）
- 【第2回 介護従事者のための公開講座 in 八戸大学】2009年11月1日（日曜日）
- 第1研修：認知症になる僕たちへ～婆さんとともに～（講師 和田行男）
 - 第2研修：食べること生きること～地域・在宅で支える口腔ケア～（講師 五島朋幸）
- 【第3回 介護従事者のための公開講座 in 八戸大学】2010年6月27日（日曜日）
- 第1研修：サービス提供責任者の役割と責務—介護支援専門員との連携方法—（講師 佐藤ちよみ）
 - 第2研修：日本の介護現場で起きている介護事件の深層（講師 田中 元）
 - 第3研修：介護保険制度の未来は、どうなる!?（講師 古川弘剛）
 - 第4研修：知らなきゃいけない!! 介護保険制度の新たな課題（講師 小竹雅子）
 - 第5研修：「八戸せんべい汁体操」指導者養成講座（講師 三島隆章・岩館千歩）
 - 第6研修：介護現場で使えて楽しい、実践マジック講座（講師 Mr. KAZZ）
 - 第7研修：実践的認知症ケアを考える（講師 藤原るか）
 - 第8研修：社会福祉法人の品格を問う！（回答者 中山辰巳、質問者 前田由美、小竹雅子、田中元）

資料2 各公開講座で開催した研修内容

チケット制にするのか、「1日参加費」とするので検討が行われた。「1講座しか受けない参加者が4講座受けた参加者と同じ参加費では不公平感がある」との意見が出され、当初はチケット制で準備を進めていったが、「ボランティアスタッフの事務処理が煩雑になる」、「4講座を受けることでお得感、お買い得感を体感できるようにしたほうが良い」という意見も出され、検討の結果、チケット制ではなく、一日参加費とすることとなった。

また、参加費の価格は1講座500円未満の価格を基準と考え、多くの参加者が4講座を受講すると仮定して2,000円を参加費と決定した。

しかし、2,000円という価格は決して安いも

のではなく、参加者の視点からみれば、1講座であれ、4講座であれ、その日の研修参加費が2,000円という意識になるために、さらなる「お得感」、「お買い得感」をどのように出していくかを検討することとなった。

(3) 仕出しの検討

そこで、出されたのが「昼食代を含めた参加費2,000円」という案の検討であった。公開講座当日は大学の学生食堂が閉まっている関係もあり、昼食の準備は必須であった。当初は「参加者個人が用意してくれば良いのではないか」、「業者に依頼して、当日販売を依頼したらどうか」という意見も出されたが、八戸大学に最も



一回目の提案仕出し



二回目の提案仕出し



三回目の提案仕出し



最終的に完成した仕出し

資料3 仕出し内容検討結果の変遷

近いコンビニは4 km 以上も離れており、昼食時間（40分）の短さに苦情が出ることや、その結果、午後の研修に支障が出る可能性もあったため、仕出し弁当の検討を始めた。

そこで、「昼食代を含めて参加費2,000円」が可能なのかどうか、仕出し弁当会社「よしなりスリースポット」に相談をしたところ、500円でお茶付きのお弁当を用意してもらうことの快諾を得た。そこで、実行委員会は、「主催者が用意するのであれば、お弁当の中身にもお得感やお買い得感を持たせることが必要」ということになり、仕出し弁当の試作品を3回検討を行い、最終的には公開講座オリジナル弁当である「介護職サポート弁当」（通称：介弁）を完成させた。価格はお茶が付いて480円となった（資料3）。

（4）ボランティア

第1回の公開講座では八戸大学職員が業務として15名運営補助に入ったが、事前申し込み参加者が300名を超えたため、八戸地域介護支援専門協議会から15名、学生ボランティア20名に運営スタッフとして参加を依頼した。第2回は学生ボランティア3名で運営し、第3回は八戸大学職員5名が業務として、八戸地域介護支援専門協議会からボランティアとして15名、学生ボランティアが20名であった。

特に八戸地域介護支援専門協議会では、今回の公開講座の趣旨を理解していただき、全面的なサポートを得ることができた。このサポートなしに円滑な運営は不可能であったと言っても過言ではない。この場を借りて心からお礼を述べたい。

(5) 参加者

参加者数は第1回が297名、第2回が211名、第3回が402名であった。

3 公開講座に対する評価

第3回目には参加者にアンケートを同封し、公開講座に対する評価を尋ねた。402名の参加者のうち139名から回答を得ることができた。その結果をみると、公開講座に参加した回数は「はじめて」が85.6%、「2回目」が11.5%、「3回目」が2.9%であった。第1回公開講座にもアンケートを行ったが、この結果をみると、通算で600名を超える介護職員が、公開講座を通して八戸大学という高等教育機関を訪れたことになる。これは、地域に認識してもらう意味では非常に意義深いものである(Q1の結果参照)。

次に、今回の参加費について尋ねたところ、「ちょうどよい」が69.1%、「やや安い」が7.9%、「非常に安い」が7.9%となっていることから、回答者の8割以上が参加費に関しては納得感あるいはお得感を感じていることとなった(Q2の結果参照)。

公開講座に関する期待と結果に関して尋ねたところ、「期待以上」が28.8%、「期待通り」が57.6%となっており、86.4%が研修内容に対して満足をしたことが推察できる(Q3の結果参照)。

次回の公開講座への参加意向をみると、「ぜひ参加したい」が25.2%となっており、回答者の4人に1人は強い参加意向を持ってもらえるほどの内容であったことがわかる(Q4の結果参照)。

Q1 「介護従事者のための公開講座」に来た回数

はじめて	119名; 85.6%
2回目	16名; 11.5%
3回目	4名; 2.9%

Q2 今回の参加費(お弁当代金含)についてはどのように感じましたか

非常に高い	4名; 2.9%
やや高い	15名; 10.8%
ちょうどよい	96名; 69.1%
やや安い	11名; 7.9%
非常に安い	11名; 7.9%
無回答	2名; 1.4%

Q3 今回、公開講座に参加してみても良かったですか

期待以上	40名; 28.8%
期待通り	80名; 57.6%
期待はずれ	5名; 3.6%
非常に期待はずれ	2名; 1.4%
無回答	12名; 8.6%

Q4 来年度の公開講座を6月に企画しますが、参加の意向はありますか

ぜひ参加したい	35名; 25.2%
都合が合えば参加	93名; 66.9%
参加したくない	4名; 5.6%
わからない	6名; 8.3%
無回答	1名; 0.7%

4 考 察

今回、公開講座を運営していくことで認識されたことは、主催者側が企画の意義・重要性を共有することであるということである。このことなしに、参加者の心を震わせることはできず、また運営する際の役割意識も高まらないということである。今後、開催を継続していく上で、運営者側のモチベーションこそが重要なものとなると考えられる。

※公開講座を開催するにあたり、資料印刷費等として八戸大学特別研究費及び、地域共同研究費を使用していることをここにご報告いたします。

